

【令和 8 年度 数学科授業改善推進プラン】

数学科で身に付けさせたい力・目指す生徒像

- ・数量や図形などの基礎的な概念や原理、法則について理解する力
- ・事象を数理的に考察し表現する力
- ・数学の良さを実感し、数学を活用して考えたり判断したりする力

学習状況及び課題

	1 学年	2 学年	3 学年
学習状況	<ul style="list-style-type: none"> ・意欲的に授業に取り組む生徒が多い。 ・基礎的・基本的な知識・技能の定着が不十分な生徒が一定数みられる。 ・話を聞くだけでなく、きちんと考えながら授業に取り組むことができる生徒が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業に集中して取り組む生徒が多い。 ・文章を読み取り、数量関係を考えたり、図や表、グラフに表したりすることが課題である。 ・文字を用いた説明の問題に抵抗を感じている生徒が多い 	<ul style="list-style-type: none"> ・数学が好きな生徒が多く、授業に集中して取り組んでいる。 ・文字を用いた説明や証明の問題にも意欲的に取り組もうとする生徒が多い。 ・既習内容の理解が不十分な生徒が極僅かいる。
学力調査結果	<p><全国学力調査></p> <ul style="list-style-type: none"> ・東京都全体と比べ、平均正答率は 13 ポイント、中央値は 2 問上回る結果となった。正答数を四分位数で見ると第 1, 2, 3 四分位数すべて上回っている。基礎的・基本的な学力が定着していない生徒がかなり少ないことが分かる。 ・観点別に見た正答率は、知識・技能で 12.1 ポイント、思考力・判断力・表現力で 17.5 ポイント高くなっている。 ・知識や技能の定着のみではなく、思考力・判断力・表現力が身に付いていることが確認できた。 		
指導上の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・計算の原理や原則をきちんと理解させて指導をしていく必要がある。 ・知識・技能の定着を図るため、スモールステップでの確認が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題に対して具体物や身近な例を利用することで、その課題に対してイメージする力を育む必要がある。 ・既習事項を復習する機会を繰り返し設定し、理解を深め、定着を図る必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・十分な思考時間の確保、授業を振り返る時間の確保が必要である。 ・一部の理解が不十分な生徒への指導方法を工夫する必要がある。

改善プラン

	1 学年	2 学年	3 学年
学習面	<ul style="list-style-type: none"> ・授業で扱った内容を日々振り返る習慣を身に付けさせる。 ・問題集を使って補充学習を充実させ、授業の理解度の向上を図らせる。 ・スタディサプリを活用して、自主的に基本の定着ができるようにしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・数学的な表現を用いて説明することで表現力の向上を図る ・定期的に復習課題に取り組み、単元の基礎・基本を確認できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・数学的な表現を用いて説明したり記述したりすることを通して説明力や論証力のさらなる向上を図る。 ・定期的に復習課題に取り組み、単元の基礎・基本を確認できるようにする。 ・ステディサプリなどのデジタル教材を活用し、既習事項を復習できるようにする。
指導面	<ul style="list-style-type: none"> ・計算方法をただ伝えるのではなく、式の意味などを捉えさせながら考える授業を行う。 ・単元ごとに基礎的・基本的な知識・技能の定着度を測るとともに、不十分な内容を再度指導するなど、スパイラル的な学習を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・数学が具体物や身近な例でどのように活用されているかを授業中に紹介することで、課題に対して正確なイメージをもたせられるようにする。 ・授業の中で、既習事項と現在の学習内容との関連性を取り上げ、復習や確認する場面を増やすことで、「基礎・基本」の定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の考えを引き出したり、粘り強く考えたりできるよう、既習事項の振り返りや発問の工夫、十分な時間の確保を行う。 ・関数や図形の問題ではデジタル機器を活用して、視覚的に理解できるようにしていく。 ・後期は模擬テストを行い、習熟度を考慮した問題解決の実践力を身に付けられるようにする。

評価

- ① 授業の自己評価表による評価
- ② 定期考査の観点別学習状況による評価
- ③ 単元テスト、小テスト、ワークシート、提出物による評価